

日病薬病院薬学認定薬剤師制度

# 研修会審査について お伝えしたいこと

生涯研修委員会 研修小委員会

委員長 矢野 良一

(大阪医科薬科大学 薬学部)

# お話しする内容

- 研修会実施状況
- 研修会審査の流れ
- 研修会審査に関する基本的な考え方
- 研修会申請時のお願い

# 研修会実施状況 | 領域別

領域	研修番号	項目	2022年度		2023年8月まで	
			申請数	単位数	申請数	単位数
I. 医療倫理と法令を順守する	I-1	薬剤師の使命と責任	97	73	45	34
	I-2	医療制度	139	122.5	25	21
	I-3	法令順守	33	27.5	4	2.5
II. 基本的業務の向上を図る	II-1	調剤	20	20	9	8
	II-2	製剤	6	4	2	1.5
	II-3	医薬品情報	83	77	16	10.5
	II-4	医薬品管理	21	17.5	3	2
	II-5	マネジメント	119	122.5	30	30.5
	II-6	教育・研究	445	446.5	97	98.5
III. チーム医療を実践する	III-1	病棟・外来業務（医療コミュニケーション）	494	452	157	158.5
	III-2	連携	816	776	195	192.5
IV. 医療安全を推進する	IV-1	リスクマネジメント（医薬品安全管理）	175	189	38	41
	IV-2	感染制御・管理	253	272	72	83
V. ファーマシューティカルケアを実践する	V-1	医薬品（製剤）特製	245	200	64	57
	V-2	疾病・薬物療法	1623	1393	512	453
	V-3	患者特性	198	176.5	48	46.5
カリキュラムなし			48	169.5	43	149.5

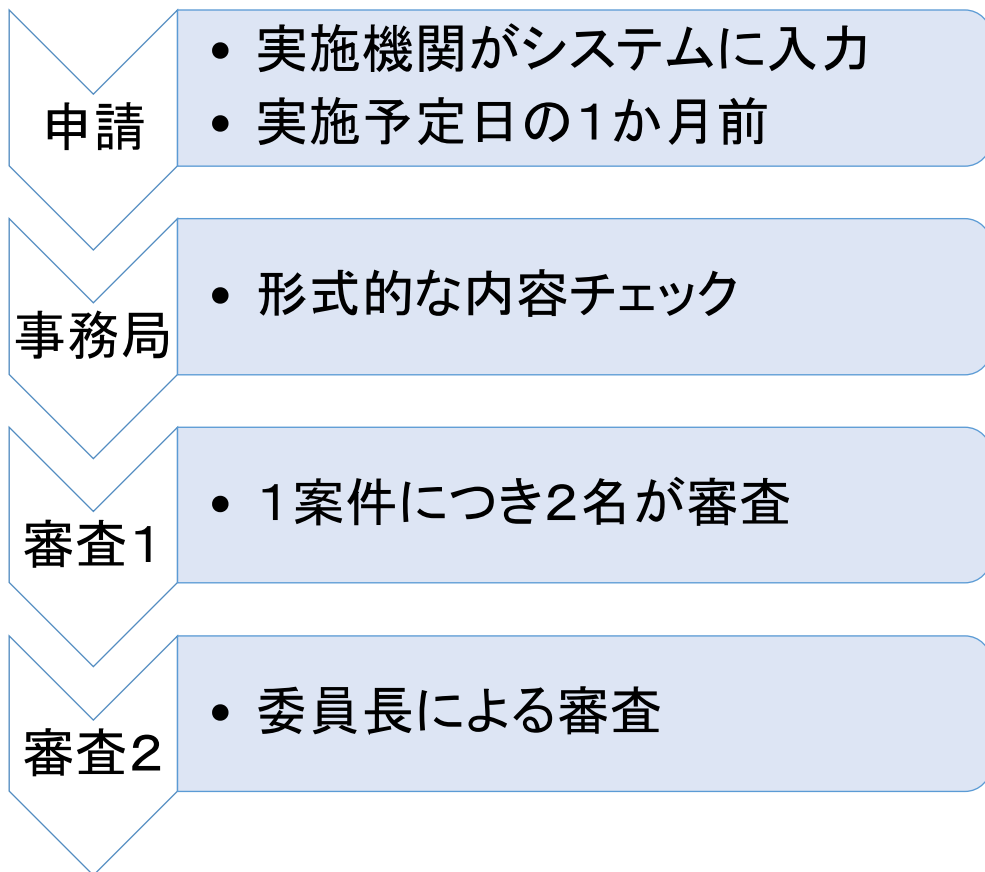


# 研修会審査の流れ

# 令和4・5年度 研修小委員会 委員

委員長	矢野 良一	大阪医科薬科大学薬学部
1 G前半	北 英士	大分県厚生連鶴見病院
1 G前半	永田 将司	東京医科歯科大学病院
1 G後半	木皿 重樹	奥羽大学薬学部
1 G後半	志方 敏幸	兵庫医科大学ささやま医療センター
2 G前半	本郷 文教	医療法人溪仁会手稻溪仁会病院
2 G前半	滝本 典夫	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
2 G後半	小坂 信二	香川大学医学部附属病院
2 G後半	市川 輝幸	佐久市立国保浅間総合病院
3 G前半	鈴木 昭夫	岐阜大学医学部附属病院
3 G前半	出雲 正治	東京慈恵会医科大学附属病院
3 G後半	深津 祥央	京都大学医学部附属病院
3 G後半	守内 匡	公立学校共済組合北陸中央病院

# 研修会審査の流れ

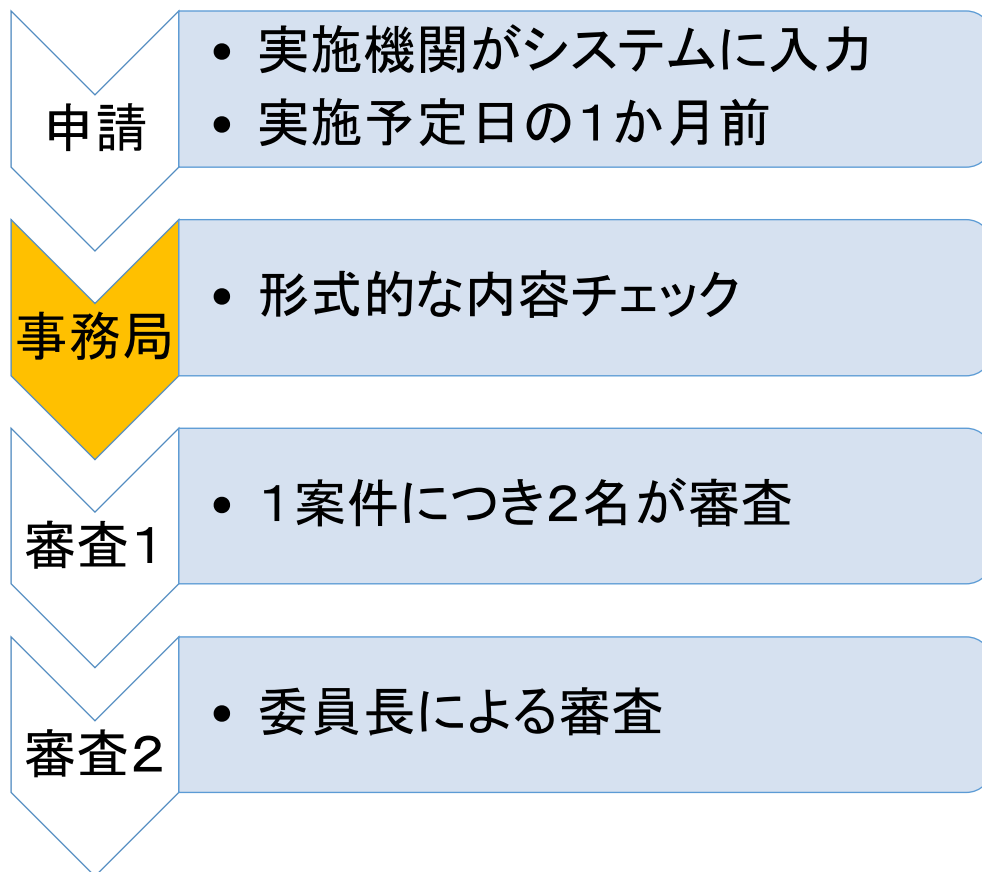


実施機関から申請された個々の研修会について、研修小委員会の委員2名が独立して審査を行い、その結果を踏まえて委員長が最終審査を行っています。

審査の過程で、実施機関に照会が必要になったり、修正を依頼することがあり、審査には時間がかかります。

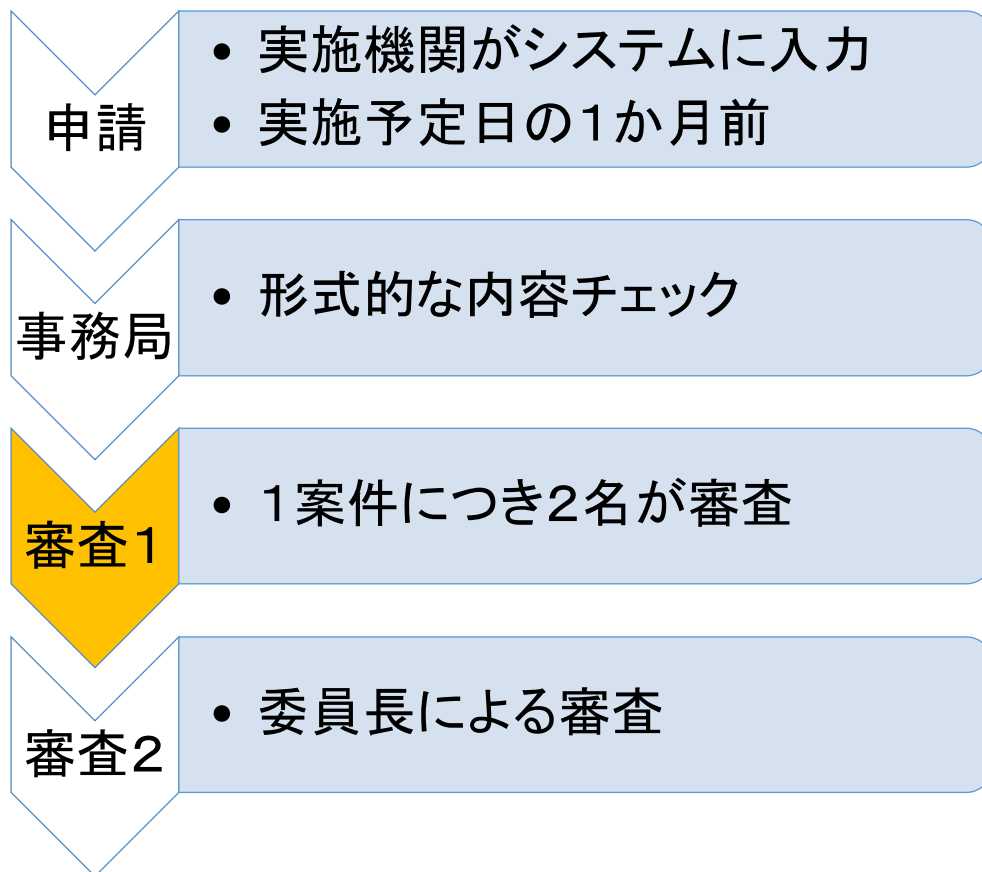
**できるだけ早めの申請をお願いします。**

# 研修会審査の流れ



- 入力不備
- プログラムとの整合性
- 添付資料（スライド）
- 企業に所属する講師の抽出
- 過去の申請内容との整合性
- 申請者コメントの確認

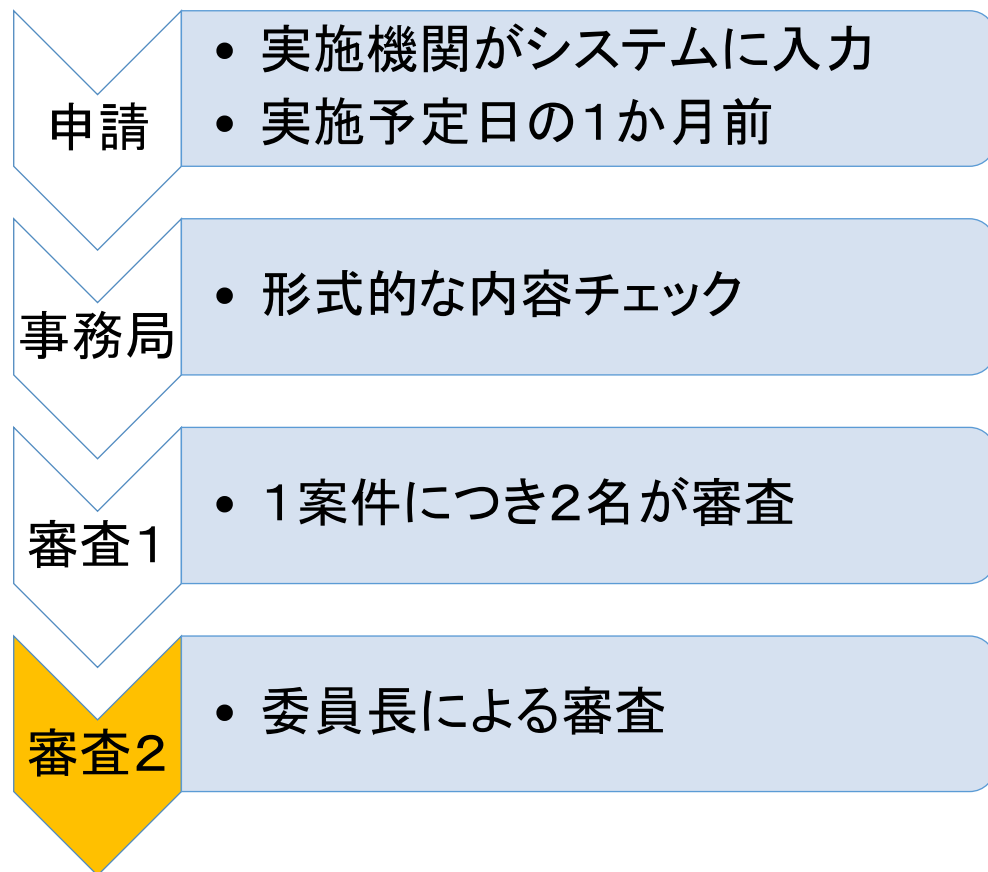
# 研修会審査の流れ



- プログラム（演題・時間）
- 研修領域
- 単位数
- 商業的要素

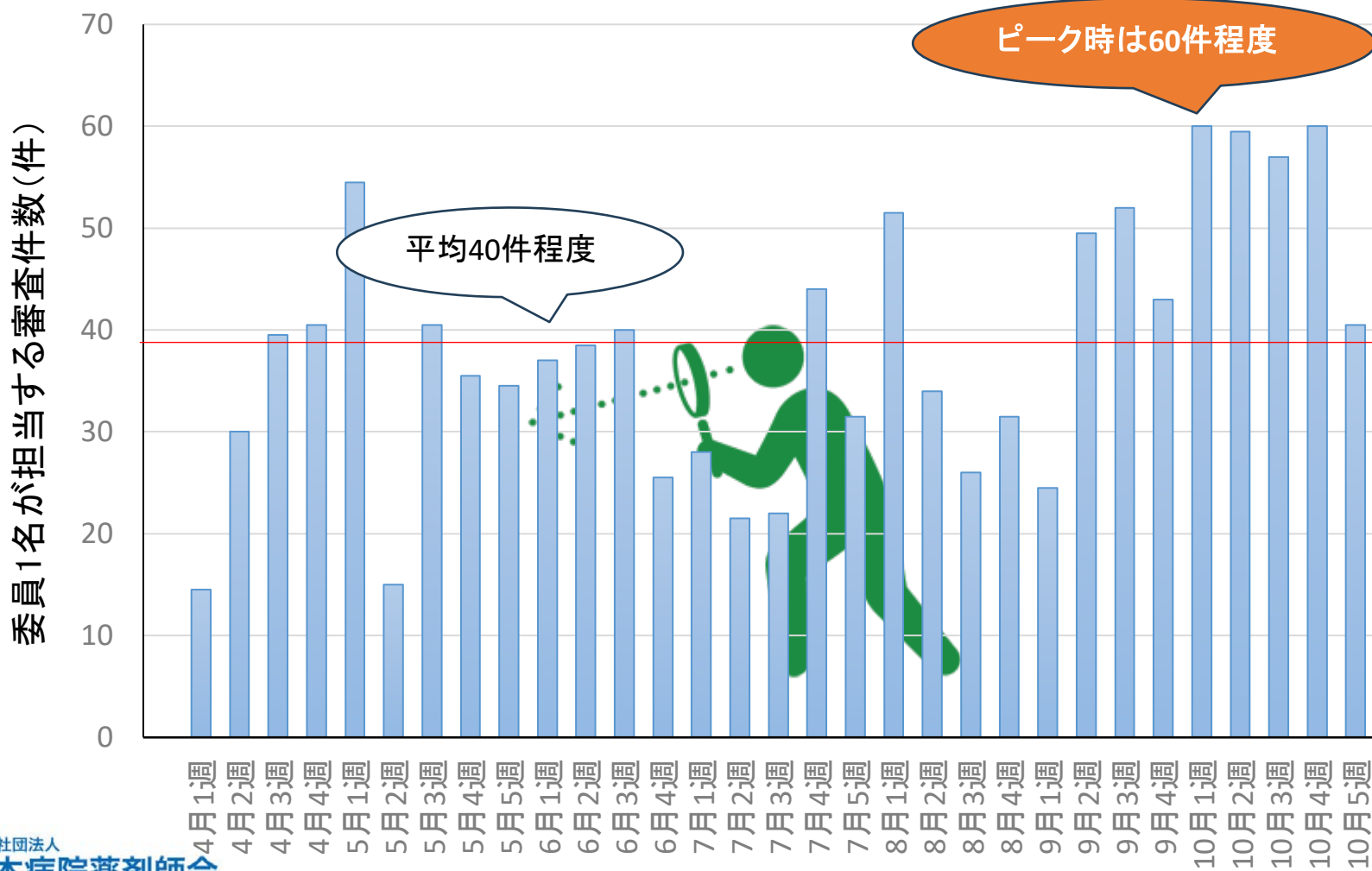


# 研修会審査の流れ



- 審査1結果の確認
- 意見調整
- 最終判断（承認・却下・保留）
  - \* 保留の場合  
実施機関と調整し再審査

# 参考) 2023年度 週毎の審査担当件数



# 研修会の審査に関する 基本的な考え方

基準・審査方針

# 研修会審査 | 基準

CPC : 公益社団法人 薬剤師認定制度  
認証機構の認証を受けて運用

## ・ 規程細則 別添 1

## 日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修カリキュラム

### 2. 日病薬病院薬学認定薬剤師の行動目標

#### I. 医療倫理と法令を順守する

医療専門職として、背景となる制度・法律を理解し、全人的視点に立って患者に寄り添う医療支援を提供する。

I-1	薬剤師の使命と責任	生命の尊さを認識し、臨床現場における生命倫理の重要性を理解する。
I-2	医療制度	質の高い医療を提供するため、医療に関する制度を理解する。
I-3	法令順守	質の高い医療を提供するため、薬剤師業務に関わる法律を理解する。

#### II. 基本的業務の向上を図る

最新の医薬品情報などをもとに、適正な処方監査と調剤、医薬品管理など、薬剤師の基本的業務を推進する。

II-1	調剤	患者情報を収集し、薬歴に基づいた処方監査、疑義照会を経て、調剤し交付する。
II-2	製剤	ガイドライン等に準拠し、必要な院内手続を経て、品質を保証した製剤を供給する。
II-3	医薬品情報	適正使用のための医薬品情報を収集・評価し、適切に情報提供する。
II-4	医薬品管理	医薬品の適正使用を目的として、品質の確保など法に則り適正な医薬品等の管理・供給の役割を担う。
II-5	マネジメント	業務の適正化、職能拡大のために経営的視野を含めたマネジメント力を養成する。
II-6	教育・研究	質の高い医療人養成を目指した実務実習を支援し、医療の高度化、多様化に対応できる研究マインドをもつ。

#### III. チーム医療を実践する

医療における薬剤師の役割を理解し、その専門性を踏まえて、多職種と協働し、個々の患者に最適な薬物療法を支援する。

III-1	病棟・外来業務 (医療コミュニケーション)	患者に最適な薬物療法を提供するため、治療効果の向上と副作用の防止に努め、チーム医療を実践し、患者の利益に貢献する。
III-2	連携	薬剤師の役割を理解し、職種間・施設間で協働して薬物療法を支援する。

#### IV. 医療安全を推進する

安全管理の方策を身に付け、患者及び医療スタッフにとって安全な医療を遂行する。

IV-1	リスクマネジメント (医薬品安全管理)	医療事故は日常的に起こり得ることを認識し、適切な情報を基にした医薬品の安全使用をはじめ、安心・安全な医療を実践する。
IV-2	感染制御・管理	消毒薬、抗菌薬の適正使用など、感染制御・管理を通じて安全で適切な環境作りを支援する。

#### V. ファーマシューティカルケアを実践する

疾病を理解し、個々の患者の病態に応じた、適切な薬物療法を提供する。

V-1	医薬品(製剤)特性	医薬品(製剤)の特性を理解し、適切な薬物療法を支援する。
V-2	疾病・薬物療法	疾病と病態を理解し、適切な薬物療法を支援する。
V-3	患者特性	患者特性に応じて、適切な薬物療法を支援する。

# 研修会審査 | 方針

- 受講者ファースト
- 実施機関の意向を尊重
- 本制度の趣旨との整合性（審査の基準）
  - 演題名に基づく領域の判断
  - 受講機会の公平性
  - 商業的意図の排除

# 演題名に基づく領域の判断

審査では、研修会全体の企画意図ではなく、個別の演題ごとにカリキュラムと照合して領域を判断する

- 同じ領域の演題を合算して研修時間を計算することができますが、本制度の研修時間は**45分（0.5単位）**を基準にしており、それに満たない場合は単位の付与ができません。

## 例外

- 様々な領域の発表が想定される学会や研究会等の一般演題については、領域Ⅱ-6（教育・研究）として包括することができます。
- 学会のシンポジウムについては、シンポジウム全体を包括して、その企画意図に基づき判断します。

# 補足) 学会の研修領域・単位

## 1) シンポジウム等の区分（セッション）ごとに研修単位を付与する

- ・ セッション毎に研修単位および研修領域を申請
  - \* セッション毎に受講者管理（入退室記録等）が必要
  - \* WEB 配信による研修の場合、セッション毎のログイン履歴・受講管理が必要

## 2) 1日ごとに研修単位を付与する

- ・ 学会の開催日ごとに研修単位を申請
- ・ 同時に複数セッションが進行する場合などでセッションごとの受講管理が難しい場合に適した申請方法
- ・ この場合、研修領域の認定は行わず、「カリキュラムなし」の単位の付与となる。（上限は1日4単位。）
  - \* WEB 配信による研修の場合、「カリキュラムなし」は選択できない

令和3年3月11日付

日病薬病院薬学認定薬剤師制度における集合研修の認定について  
（日病薬病院薬学認定薬剤師制度規程細則別添2 関連資料の改正）

<https://www.jshp.or.jp/content/2021/0311-3.html>

# 受講機会の公平性

受講機会の公平性を確保するため、本制度のもとで開催される研修会は、広く公開されている必要がある

- 参加資格が実施機関の会員に限定されている研修会は単位付与の対象外です。
- 実施機関の皆様は研修会の開催について広く周知を行うよう努めてください。
- 2024年度から、研修受講者は研修システムを利用し、全国で開催されている研修会を検索することができるようになる予定です。



# 商業的意図の排除

企業によるプロモーションと研修は明確に区別する

プロモーションの意図が読み取れるプログラムには研修単位を付与できない

- 研修会名称および演題名に企業名や製品名を含むもの
- 案内状に企業名や製品名、ロゴが目立つもの
- 企業に所属する演者のプレゼンテーション内容に企業の紹介、製品・自社サービスの紹介等を含むもの

\* 企業所属でない演者の講演においても、医薬品名等は可能な限り一般名を用いるようにしてください

# 研修会申請時のお願い

# 研修時間の確保

- 同じ領域の演題を合算して研修時間を計算することができますが、本制度の研修時間は45分（0.5単位）を基準にしており、それに満たない場合は単位の付与ができません。

一般演題（〇〇における多職種連携） 20分

特別講演（〇〇の病態と治療戦略） 40分

領域V-2（0.5単位）として申請されたが、審査では一般演題は領域Ⅲ-2と判断された。この場合、どちらの演題も単位認定に必要な45分を満たしておらず、単位を付与できない

# 研修時間の確保

- ・プログラムに共催企業によるプロモーションを含めることは可能ですが、研修とは明確に区別し、研修時間を確保してください。

演題名：ウイルス感染症の治療戦略と治療薬の位置づけ(60分)

製薬企業の社員が、自社製品の開発経緯や医薬品情報に関する内容とウイルス感染症全般について解説する講演を予定

→自社製品を紹介する時間を別に設ける

→ウイルス感染症の治療戦略や治療薬の位置づけを公平に解説する内容に修正した上で、研修時間が45分以上となるように調整依頼

# 研修領域の選択

- 研修領域はカリキュラムに基づいて選択してください。

【具体的な研修項目一覧】

	研修番号	項目	〈具体例：関連する研修事例〉
	I-1	薬剤師の使命と責任	薬剤師の使命、ヒューマンイズム、インフォームドコンセント、患者の権利、終末期医療

この表に様々な具体例が挙げられていますが、演題名にこれらのキーワードが含まれるからといって、必ずしもその研修領域が適切であるとは限りません。

例) がん疼痛緩和医療におけるオピオイドの使い分け・・・領域Ⅲ-2?

Ⅲ. チーム医療を実践する	Ⅲ-1	病棟・外来業務 (医療コミュニケーション)	薬歴、薬学的管理、ハイリスク薬、服薬アドヒアランス、処方設計、処方提案、薬物相互作用、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、検査値、副作用モニタリング、レジメン管理、コミュニケーションスキル、カウンセリング、コーチング、医療面接
	Ⅲ-2	連携	病室連携、薬室連携、病診連携、地域連携、多職種連携、救急医療、災害医療、 <b>予防医療</b> 、地域医療（プライマリ・ケア）、在宅医療、クリニカルパス、プロトコール、栄養サポート、 <b>緩和医療</b>
Ⅳ. 医療安全を推進する	Ⅳ-1	リスクマネジメント (医薬品安全管理)	ヒヤリハット、事故事例分析、医薬品安全、医療機器安全、プレアポイド、放射線被曝、抗がん剤暴露、医薬品安全管理手順書、災害・救急対策
	Ⅳ-2	感染制御・管理	院内感染、感染対策、耐性菌、抗菌薬適正使用、消毒薬、サーベイランス、予防接種
Ⅴ. ファーマシューティカルケアを実践する。	V-1	医薬品（製剤）特性	薬物動態学、薬力学、TDM、PK/PD、ADME、薬物相互作用、副作用、漢方、DDS、生物学的製剤、抗体医薬品、バイオシミラー、輸液、医療機器、医療材料
	V-2	疾病・薬物療法	<b>〈ICD10（国際疾病分類）〉</b> 感染症・寄生虫症、新生物、血液・造血器・免疫疾患、内分泌・代謝・栄養疾患、精神・行動障害、神経系疾患、眼・付属器疾患、耳・乳突突起疾患、循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、皮膚・皮下組織疾患、筋骨格系・結合組織疾患、尿路器系疾患、妊婦・分娩・産褥、周産期、先天奇形・染色体異常、異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの、損傷・中毒・その他の外因の影響（食事・運動療法を含む）、ガイドライン解説
	V-3	患者特性	小児、高齢者、妊婦・授乳婦、肝・腎機能低下患者、個別化医療

# 研修領域の選択

判断に迷いやすい境界領域

領域Ⅲ-1 薬剤師の行動（処方提案や患者指導）に着目

領域Ⅲ-2 多職種連携、地域連携に着目

領域Ⅴ-1 医薬品の特性・使い分けに着目

領域Ⅴ-2 病態・治療に着目

領域Ⅴ-3 治療上、特別な配慮が必要な患者集団

# 研修領域の選択

演題：慢性心不全の治療における薬物療法の重要性

領域Ⅲ-1 薬剤師の行動（処方提案や患者指導）に着目

領域Ⅲ-2 多職種連携、地域連携に着目

領域Ⅴ-1 医薬品の特性・使い分けに着目

領域Ⅴ-2 病態・治療に着目

領域Ⅴ-3 治療上、特別な配慮が必要な患者集団

# 研修領域の選択

演題：①診療ガイドラインに基づく慢性腎不全の治療戦略  
②慢性腎不全患者におけるがん診療のピットフォール

領域Ⅲ-1 薬剤師の行動（処方提案や患者指導）に着目

領域Ⅲ-2 多職種連携、地域連携に着目

領域Ⅴ-1 医薬品の特性・使い分けに着目

領域Ⅴ-2 病態・治療に着目

領域Ⅴ-3 治療上、特別な配慮が必要な患者集団



# 研修領域の選択

- 題名のみで領域選択の意図が伝わりにくいと考えられる場合は補足説明をお願いします。
- \* 現行システムでは「備考」、新システムでは「講演内容」または「申請意図」の入力欄をご活用ください。

## 慢性心不全の治療における薬物療法の重要性

備考欄（講演内容）

本講演では、薬剤師の〇〇先生に、慢性心不全治療における内服継続支援の取り組みを中心に解説していただきます。

→薬剤師による治療継続支援に主眼がある（領域Ⅲ-1）

# さいごに

本制度についてさらに理解を深めていただき、受講者に多くの良質な研修をご提供いただきますよう、今後ともご協力をお願いします。